

## えひめの歴史文化モノ語り

県歴史文化博物館から 56

現在、県歴史文化博物館（西予市）では、秋の特別展「瀬戸内ヒストリア」が開催中（11月24日まで）だ。この展示は古代から近代までの瀬戸内の歴史を紹介しており、近代の展示は瀬戸内海交通と観光がテーマになっている。そこで今回は、展示資料の中から近代瀬戸内海交通において、絶大な人気を博した船を取り上げたい。

写真の船名は「紅丸（くれないまる）」。大阪から大分別府をつなぐ航路を走

る大阪商船の船で、「瀬戸内の女王」と呼ばれた。実は、写真の紅丸は2代目の紅丸である。大阪別府航路に就航していた初代紅丸は、他の航路へ移ってしま

## 豪華客船「紅丸」



「瀬戸内海の女王」と呼ばれ、大正末から昭和初めにかけて大阪一別府間を往来した豪華客船「紅丸」の模型—県歴史文化博物館蔵

工が施される。和洋がモダンに混ぜられた独特の「日本式」でしつらえられた豪華な紅丸は、一躍大阪商船の人気船となった。

大阪商船は、その名とおり大阪港を中心に各地へ航路を広げた代表的な商船会社であるが、この商船会社の設立に、愛媛の有名人が大きく関わっていたことをご存じだろうか。その人物こそ、広瀬幸平である。

広瀬幸平と聞いて多くの人は、別子銅山を思い浮かべるだろう。住友家の総理。事となった幸平は、事業拡大を図り、事業家の五代友厚らと諸会社を設立するが、そのうちの1社が大阪商船であった。当時57歳であった幸平は商船会社設立のために最前線で奔走し、1884（明治17）年大阪商船を設立し、初代頭取を務めたのである。少し寂しいことに、広瀬幸平が瀬戸内海交通の発展に貢献していたことは、県内でもあまり知られていないように感じる。今回の展示で、瀬戸内海交通の近代化に、愛媛の人物が大き

## 人気絶大海上のホテル

食堂はルネサンス式、床はステンドグラスのドームでモザイク張り、天井は高く彩られ、細部には和風の細

（学芸員・甲斐末希子）

〈8月2回掲載します〉